

# 朝日中学校だより

笑顔あふれるあたたかい学校

令和4年6月30日発行



【教育目標】 進んで学び 豊かな心をもった たくましい生徒

## 6月全校朝会講話 「いじめ防止について」

校長 近 貴志

6月7日（火）全校朝会の校長講話では、「いじめ防止」についてお話ししました。いじめの認知件数は、令和2年度は全国の小・中・高・特別支援学校の合計で約51万件です。例年、50万件も「いじめ」が認知されています。

ところで、「いじめ」とは何でしょうか。

「技術の授業中、仲の良いA君が、ラジオの組立ができずに困っていたようなので、脇から手を出して手伝ってあげた。そうしたら、『自分でしたかったのに』とA君が泣き出してしまった。」

これは「いじめ」になると思いますか。

答えは、「いじめ」になるのです。

学校で同じ授業を受けているという人間関係があり、一方が他方に精神的肉体的に苦痛を与えた場合、「いじめ」となります（被害側が苦痛を感じれば、それは「いじめ」です）。

いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも、起こりうる（誰でも起こすおそれがある）ものと考えなければなりません。



いじめを起こさないためには、どうしたらよいのでしょうか？

また、いじめをしてしまったら、どうしたらよいのでしょうか？

### 1 相手の立場に立って考えてみる。

違う意見をもつ相手と遭遇した場合は、自分の意見を押し通す前に、一度相手になりきってみて、相手の立場から物事を見る。

### 2 次に、自分と相手の妥協点を見つける。

相手の考えを、ここまでなら採用してもいいかな？と思うところまで取り入れる。

自分（の考え）のよさを失わない程度に、相手を尊重することは、争いを起こさない上で大事なことだと思います。

自分の行為が「いじめ」だと気付いたら、どうしたらよいのでしょうか。

### 1 ただちにその行為をやめる。

### 2 もう二度とその行為をしないことを被害側に伝える。（謝るという行為が伴うのが通常です。また、被害側にとって、「そのいじめが二度と起こらない」と知るとても重要です）

朝日中学校では、いじめが起こらない、起きてもすぐに解消する、というようにするために、全校生徒に以上のことについて考えてもらえたら、とても素晴らしいと思います。

朝日中学校では、日々の取組をホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

ホームページアドレス <http://asahi-j.murakami.ed.jp/>



## 下越地区中学校総合体育大会終了

6月10日（金）、24日（金）、25日（土）、陸上競技は15日（水）と、中学校体育連盟（中体連）主催の大会が開催されました。下越地区大会の各競技の結果を、以下のとおりお知らせします。

<p><b>【陸上競技】</b>                      ○共通女子砲丸投 木村 4位 県大会出場                      ○共通男子 1500m                      板垣 予選2組 13位                      佐藤 予選3組 9位</p>	<p><b>【バスケットボール男子】</b>                      1回戦 81－43 対猿橋中 勝利                      ※ 当日配信のメールでは81－41とお知らせしましたが、訂正いたします。                      2回戦 51－87 対両津中 惜敗</p>
<p><b>【バレーボール】</b>                      予選リーグ                      第1試合 2－0 対築地中 勝利                      第2試合 2－1 対荒川中 勝利                      トーナメント                      1回戦 0－2 対新発田川東中 惜敗</p>	<p><b>【バスケットボール女子】</b>                      1回戦 33－49 対猿橋中 惜敗</p> <p><b>【野球】</b>                      1回戦 1－19 対豊浦中 惜敗</p>
<p><b>【卓球】</b>                      男子団体 予選リーグ 1勝2敗 惜敗                      女子団体 予選リーグ 0勝3敗 惜敗                      男子個人 長谷部 4回戦惜敗                      須貝、飯沼 3回戦惜敗                      女子個人 菅井 3回戦惜敗                      大滝、小池、高橋、鈴木 2回戦惜敗</p>	<p><b>【剣道】</b>                      ○男子個人                      佐藤瑞 3回戦 惜敗                      佐藤千 2回戦 惜敗</p>

大会を各会場で参観し、どの部も全力でプレーしていたことに感動しました。技術の高さには「美しさ」を、試合に勝ったことには「喜び」を感じますが、それとは別に、選手のマナーや取り組む態度のよさにも「美しさ」を、朝日中の生徒が一生懸命頑張っていることにも部活動をとおして成長したことの「喜び」を感じました。きっと保護者の皆様も同じお気持ちだと思います。

残念ながら負けてしまった生徒の皆さんには、今日は（試合では）負けてしまったけれど、現況は自分の意志で変えられるので、新しい挑戦を始めてほしいものです。



6月6日（火）の部活動決意発表会（選手激励会）の様子

部活動の地域移行について 6月16日(木) 校長 近 貴志

部活動はこれまで、学校教育の一環として、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に寄与してきました。

ですが、全国的な少子化により部員が少ない部が増加していること、学級数に応じて教員数が決まるため今後も顧問が不足すること、などの問題が見通されています。

今、部活動の持続可能な運営体制をどう再構築するか、社会全体で考える時期に来ています。当校においても、村上市全体においても同様です。

最近、スポーツ庁の「運動部の地域移行に関する検討会議の提言」によって、

○休日の部活動は今後3年間(令和5年～7年)で、地域に移行する。

○平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組む。

と定まりました。

平成29年告示の現行の学習指導要領には、「(学校は)地域の人々、社会教育施設や社会教育団体等の各種団体と連携などの運営上の工夫を行い、(部活動の)持続可能な運営体制を整えられるようにするものとする」とあります。

このことについて、朝日中学校では総合型地域スポーツクラブ「愛ランドあさひ」様と数回検討を行いました。愛ランドあさひ様からは、「融合型部活動」を朝日地区で実施したいという提案がありました。融合型部活動とは、例えば平日は学校で、休日は愛ランドあさひ(朝日地区総合体育館)主管で、部活動を運営するというものです。休日の指導者は、地域の方々、あるいは自ら希望して兼業申請の許可を得た教員です。

私なりに考えて、融合型部活動の導入には、以下の魅力があると思います。

○今まで学校部活動が果たしてきた役割が、今後も地域によって持続可能になること。

○生徒の自律性、自主性が育つこと。

○地域の教育力を発揮する場となること。

○子どもの郷土愛が育つ場となること。

少し話がそれますが、融合型部活動に限定せず、学校と地域との連携によって、まちづくり事業への参画や、地域貢献活動、文化活動などもあってよいと思います。それらをとおして全ての子どもに誰一人取り残されることなく居場所とやりがいがあり、充実した13歳～15歳期を過ごせる朝日地区になればよいと思います。

地域の大人と子どもがかかわる場があることによって、子どもに郷土愛や連帯感・責任感等が生まれ、将来の朝日地区に還元されると思います。

実現のためには、課題が多くあります。

現在の最大の課題は、地域のスポーツ指導者の募集だと思います。「朝日地区で子どもにスポーツを指導してくださる方」が参画してくださることがない限り、この事業は成立しないからです。

また、経費(参加する子どもの家庭が負担する経費)はどう変わるのか、現在のところは不明です。指導者への報酬負担は、部活動では発生しなかったのですから、どの程度負担が増えるのか、全国的にも未定の部分です。これは、国や県からの助成がはっきり決まっている段階ではないこともあります。

くり返しになりますが、朝日地区で子どものスポーツ活動を持続可能にするために、小中学生の保護者の皆様や、地域の皆様、関係機関の皆様と、朝日地区における部活動の円滑な地域移行について検討を行っていきたいと考えております。この話題は今後もブログ等で時折掲載していきますのでご覧ください。

## キャリアスタートウィークに向けた講演会を行いました

6月8日（水）

この日の総合的な学習の時間に、2年生のキャリアスタートウィーク（職場体験）に向けての講演会を行いました。

講師として、株式会社ニュース・ライン Komachi 事業部の小田朱莉様からお越しいただきました（※『Komachi』は書店やコンビニエンスストアで販売されている県内の情報誌です）。

小田様は『Komachi』の編集者として、社内で各号の企画会議を行い、県内を駆け回って取材し、記事の編集まで行って発刊に至るまで活躍しておられます。

中学生にとっては、学校の外の社会で活躍しておられる方のお話を直接うかがう貴重な機会となりました。

講演中、学習の一環として、2年生は10班に分かれ、「おすすめスポット編集会議」を行いました。「瀬波温泉」「イヨボヤ会館」など、たくさんのおすすめスポットが挙げられました。人にお店の魅力、品物の魅力を伝える仕事の素晴らしさを、小田様から教わりました。

本当にありがとうございました。



### 「私の随想録」第8回

令和3年度10月より、職員の身近な話題、趣味や関心事、継続して取り組んでいること等、自由で個性ある内容をお届けしています。

今年度第2回は、事務長の五十嵐賢子さんです。

「ぜひ北上してみませんか？」

いからし けんこ  
五十嵐 賢子

旧山北町の中継<sup>なかつぎ</sup>という山の中で育った私は、なぜか広～い海に憧れていました。結婚条件に「海」は特になかったのですが、山形県鼠ヶ関に暮らし始めて約30年。雪下ろしができない代わりに暴風雪が半端ではないし、塩害のおかげで車も室外機も錆だらけでモノの回転率が早いです（泣）。でも、鼠ヶ関にも誇れるスポットがたくさんあります。

『念珠の松庭園』 我が家のすぐ後ろにある山形県天然記念物です。約400年前に盆栽の松を庭に地植えし、庭師が手入れをしてきた黒松です。一本の松がまるでこれから天に昇る龍のように、大きく横へと伸びています。



『近世念珠関址』<sup>きんせねんじゆせきあと</sup> 1300年前からの関所で奥州三大古関のひとつ、源義経ゆかりの地といわれています。「鎌倉殿の13人」で菅田将暉が演じた源義経が、兄の頼朝に追われて奥州平泉をめざして日本海を北上し、念珠関に入ったという説もあります。

『鼠ヶ関灯台』 弁天島の先端にあります「恋する灯台」として2016年に認定されました。白亜の灯台と赤い鳥居とのコントラスト、灯台の先に見える大迫力の大海原の絶景、日本海に沈む夕陽に感動します。



ぜひ、北上して鼠ヶ関に足を運んでみてください。朝日屋のお寿司も有名ですよ。